



難聴の子どもと保護者を支援する「びよんぴよん教室」で指導員になって30年になります。大阪府内に5教室あり、私が勤める寝屋川市の教室には乳児から高校生まで60人ほどが通っています。

プロックやおはじきを使って色の名前を覚え、音楽に合わせて動いたり止まったりして、聞こえや言葉の療育を実践しています。

コロナの流行前は、唇の動きや舌の位置を見せて発音を習得してもらい、表情から感情を読み取る練習を続けてき

佐崎三千代さん 68

(大阪府枚方市)



体験生かし難聴児支援30年

ました。今はマスクで顔の半分が隠れて意思疎通が難しくなり、声を出しての発音が思うようにできないもどかしさを感じます。マスクがいらぬ日常が待ち遠しいです。

難聴の長女を育てた体験から、保護者に「しっかりと目を合わせて話しかけて」「できることを少しずつ増やしてい

きましょう」とアドバイスしています。コミュニケーションに役立つ手話も、親子一緒に学んでもらっています。

教室で駆け回ったり、跳びはねたりするのが、健康維持にもつながっています。体力の続く限り、孫のような子どもたちの成長に関わっていきたいと思っています。

「わいず倶楽部」〒530・8551 読売新聞大阪本社
電話06・6366・2338 (土日祝除く10:00~17:00)
ファクス06・6366・2346 Eメールeditor@ysclub.jp

*「わいず倶楽部」次回は7月5日に掲載予定です。

2022.6.21 読売新聞 夕刊

寝屋川びよんぴよん教室 佐崎さんが掲載されました。